

教育長だより

鹿児島県三島村教育委員会
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県の教員として県内の小学校、鹿児島市教委主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で10年間離島教育に従事し、鹿児島県小学校長会会長も務めた。

「生きる力」の理念にある「豊かな人間性」。では「人間性」とは何か。辞書には「人間の本性、人間らしさ」とあります。「人間の本性」といえば、「善」だけとは限りません。自己実現を目指したり美しいものに感動したりするのも人間、いじめをするのも戦争をするのも人間。でも、一般的に「人間性が高い」とか「人間性を疑う」などは、そのポジティブな面に焦点を当てています。未熟な私などは、弱さや欠点があるからこそ「人間らしさ」だとうそぶき、失敗するたびに「いいじゃないか、人間だもの」(相田みつを)の詩に心が癒やされているのですが。

先日、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」が無事帰還しました。6年間の宇宙空間の長旅を終え、「玉手箱」と呼ばれるお土産を持ち帰ってきました。初代「はやぶさ」は、7年間の大宇宙航海を全うしましたがその旅はトラブル続き。小さな惑星「イトカワ」に着陸、サンプルを採取した後、満身創痍になりながらも奇跡的に帰還しました。「もうダメだ。あきらめるしかない」という場面は何度もありましたが、まるで人格をもつかのように困難に耐え危機を乗り越えていきます。そして、自らは火の鳥のように真っ赤に燃え尽き、自分の子どものように大切に抱き続けたカプセルは無事に地球に送り届けました。今回の「はやぶさ2」は、ほぼノーミスで、小惑星「リュウグウ」から完璧なサンプルを地球に送り届けてから、何とまた新たなミッションへ。冒険はまだ終わっていません。

初代、二代と続くアドベンチャー。精巧なマシンではあるが生命をもたない「はやぶさ」の姿に多くの人たちが感動し、涙を流したのはなぜでしょう。それはその航海がまるで大いなる人間ドラマであり、そこに「人間性」を感じたからではないでしょうか。生きるということは常に順風ではなく、ストレス、不安、恐怖などにたびたび遭遇します。さまざまな問題を乗り越えていく経験の積み重ねが、自信や誇りとなって「豊かな人間性」を育む。そんな生き方こそが「生きる力」を身に付ける真の道である。そんな生き方への憧れが、ただ生きるのではなく、よりよく生きたいと願う人間だけがもつ「豊かな人間性」なのかも知れません。

宇宙の小さな点のような「リュウグウ」ですが、持ち帰ったサンプルからは、宇宙の成り立ちや生命の起源を解明するヒントが得られるかも知れないということです。我が三島村も南の海に浮かぶ小さな三つの点です。でも、子どもたちには自信と誇りをもたせ、勇気を与えたい。教育の目的はそれに尽きると感じています。

この連載を通じて、改めて離島教育の「教育の原点」としての役割と、次の世代に送るカプセルの中身について、自分自身が考えを深めることができました。この連載も最終号。読者の皆様、エールをいただいた方々に感謝します。

島のヒーロー

台風が来て 島じゅう真っ暗
てい電だ てい電だ 大さわぎ
島のヒーロー すぐ出動
朝から晩までがんばって
みんなに電気をとどけるよ
電気をつないだ島のヒーロー
それが父ちゃん
台風なんかに負けないぞ
私の父ちゃん
すごいでしょ
(小4児童)

